



◇ナーサリーこぼれ話◇

あたためたい～乳児の足湯

気温がぐんぐん下がってきた冬のある日。散歩から戻った暖かく設えた保育室の中でも、ほしぐみのH（7か月）の足は冷たく白い。せっせと足先をさすったり温かいタオルで拭いてみたりするが、保育士の体温ほどにも温まらない。保育士のSさんが、その日も、その前日も前々日も、「これじゃあ赤ちゃんじゃなくて白ちゃんだよ……」とHの足の冷たさを嘆く。冷たい足先を温めたい一心で、足湯をやってみてはどうかと思い立つ。足を温めれば、全身の血行も良くなり、よく眠れるようになるかもしれないし、薬の塗布ではなかなか良くならないその子の皮膚疾患にも効くかもしれない。



かくして、午睡の前に、部屋のフローリング部分にバスタオルを敷き、お湯を張ったタライを置いて、まだ到底椅子に座れないHを膝に抱っこして、足をお湯につけさせた。お湯の中で、少しずつ足先が温まっていくのを感じる。そして、それに手を添える保育者の心身にも、温かさがじわっと広がるのを感じる。次第に、Hだけでなく、ほしぐみの子どもが皆、足湯をするようになる。そして、降り積もった雪の中を遊んだ頃から、1、2歳にじぐみでも足湯を楽しむようになった。温かいお湯に冷たい手足をつけると、からだの中の何かが溶けるのだろう、皆、ふにゃっと柔らかい、気の緩んだ表情になる。それが本当にいとおしい。（主任保育士K）

